

諸生党の碑

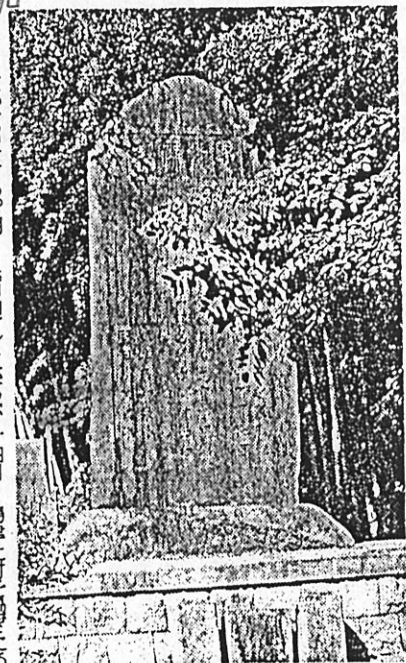
□上□

最近、水戸市内の老人福祉施設建設予定地に諸生党の大きな石碑があるのが確認された。歴史研究者の間からは「いまさらになってまさか」の声が続いている。一方、田中角栄元首相の出身地として知られる新潟県の西山町では戦死した諸生党の供養碑を建てる動きが具体化しているという。諸生党——水戸の歴史に関心がある人にとってはいつまでも忘るべきだが、若者の中には「諸生党って何だ」と首をひねる向きも多いのでは。そこで、この機会に諸生党にスポットをあててみよう。

(待報部・市村真一)

い抗争の果て、水戸の有識な人材はことごとく失せ、このため明倫、国政で活躍する水戸人はほとんど出ていない。

「勝てば官軍、負ければ賊軍」のたとえ通り、諸生党の行く末はめじめなものとなった。多くが世間の目をはばかり、水戸を離れていったという。史料も残らず、諸生党の実態解明は難しい。特に明治政府樹立後の行動はすに包まれ、研究する者もいなかった。



水戸の祇園寺に昭和9年に建てられた諸生党慰霊碑

藩内の保守門閥派

天狗党とし烈な抗争展開

幕末の水戸藩は幕主攘夷の思想を背景に藩政改革を唱える天狗党と呼ばれる一派と、これに反対する保守門閥派の諸生党と呼ばれる一派に分かれ、激しく争った。諸生党は家老の市川三左衛門らを中心に幕府・藩の追討軍とともに天狗党の鎮圧にあたり、藩内に残った天狗党とその家族を虐殺。天狗党は京都の一橋慶

中、金沢藩に下り、慶応元年(一八六八年)新政府軍年(一八六五年)武田耕雲とともに戻ってきた天狗党系など三百五十人余が敵討で処刑された。諸生党は幕府滅びまな藩が家族とともに虐殺された。血で血を洗うさまじ

は、昭和四十年代から五十年代には石川誠徳侯(時)らスタッフを動員し、ナン解きに挑んだ。その結果、日々足跡だけはほぼ解明できた。

る。同日、家老鈴木縫殿に率いられた追討軍が水戸を出発。諸生党は翌二十日、会津若松に入り、二十四日新潟県津川町に至る。五月三日、椎合・宮川の戦い(同

約五百人の諸生党は千月一、二百にかけ弘道解の戦いを挑むが敗れ、千両の八日市場で追討軍と最後の戦いを行い壊滅する。指原をとった市川三左衛門は津川に逃れ、潜伏しているところを捕らえられ、明治二年春、極刑に処せられた。

その一部を紹介する。明治六年三月十日水戸をたぎ十三日太走を経て十九日には郡山市の御代に泊ま

県西山町)に参戦、十四日には灰結(同町)与板(与板町)などで官軍と戦う。その後、豊岡城攻防戦に参戦。七月二十八日、武田金次郎ら第二次追討軍が水戸をたつ。二十九日、豊岡城落城し、会津に向かう。八月二十三日の会津背あがり

の戦いを経て、九月二十二日には鶴ヶ城が落ち、拠点を失った諸生党は度岡藩や新撰組の残党を連れ、水戸を自衛す。会津高田町、田島町、黒磯市のルートは険しい那須連峰越えながら、一氣に越えた。二十七日、

諸生党の碑

□中□

水戸市街の西方、1.3キロ、国道が渡里台地から飯沼方面に下る坂を各沢坂と呼ぶ。坂の北側崖(かけ)縁は緑地。水戸市はここに老人福祉施設を建設する計画を立て、用地の測量を行った。雑草が生い茂り、うっそうとした杉木立は怪おろす暗く、人を寄せつけない。

毛熊五郎為記念建碑ス 当年八十三才 職員の驚きはもとでもあった。賊軍とよる空襲で破壊され、碑文の拓本のみが残っている。いすれも個人を対象としたものではなく、諸生党全体

地。諸生党はこれを熟知し、金沢坂は、明治元年九月末、諸生党が会津から水戸に向かったとの情報を入手した水戸藩が手勢を配した。諸生党はこれを熟知し、

兄の帰水を記念に

杉林の中にひっそりと

けもの道のよさな細い道を分け入った市職員は、まもなく杉木立の向こうにこんもり盛りあがった塚とその上に立つ石碑を見つけた。風をのんだ。「なんの碑だろう」。塚の石段をあがり、碑文を見た職員は驚いた。「まさか」。碑文には

「まきか」。碑文には、市川三左衛門会津ノ戦終り國元へ引揚ケ家來市毛善八郎付随ス弟

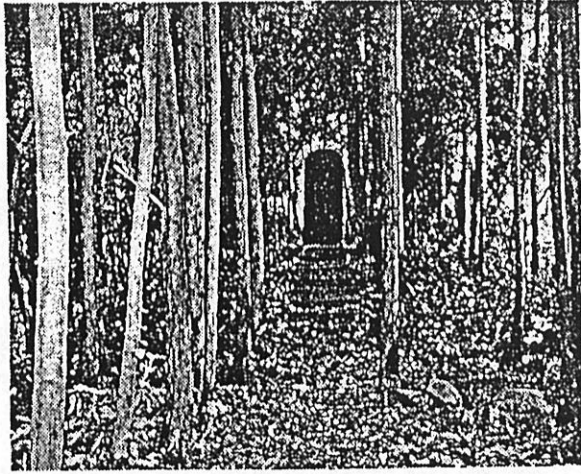
った諸生党の指揮者の家來の弟が、兄の帰水を記念して碑を建てると考えられないうちからだ。諸生党に關係する水戸市内の碑で知られているのは、祇園寺(昭和九年建立)と弘道館の戦い十七回忌にあたる明治十七年、神心寺に建てた二つ。神心寺の碑は昭和二十年八月の米軍に

の供養を目的に建立された。今回確認された石碑(建立時期は不明)について、末水戸藩に詳しい茨城大名誉教授の瀬谷義彦さんは「とても珍しい。よく個人で建てました」と感心することになり。また研究者の間でその存在が知られていなかった点について(石

碑の建つ緑地約六千平方メートルは、共有地だったが市に寄付された。共有地の代表、鈴木隆さん(水戸市西前区)は、市毛善八郎のひ孫にあたる。「私は十年前まで夫(〇)党の子孫と思っていました。祖母が夫の御葬をよく話していたからです。ところが碑があるというので見ましたら市

川の家來とあり、諸生党の子孫とわかつたわけです。鈴木さんはこれか先祖を熱心に調べた。「善八郎は待同心だったんですよ。弘道館の戦いは敗れ、田野和二年に死んでいるんですよ。だから大正末ごろかもしれない。杉林の中でひっそりと年月を過ごした碑も二度だけスポットライトを浴び

聞いてます」と鈴木さん。昭和十一年十月、田中光顕伯爵や教育界で異彩を放った峰間信吉、渡里村村長も務めた渡辺健衆院議員らが碑の供養を行ったのだ。そしていま、再び老人福祉施設の一部に移される話が具体化、目の目をみる



人知れず渡里台地の杉林の中で時を過ごした市川三左衛門家來の市毛善八郎の碑

諸生党の碑

□下□

昭和三十二年夏、新潟県刈明郡西山町吹站の柿畑から人骨が出て騒ぎとなった。このあたりは明治元年五月、諸生党と官軍が激突し、諸生党にかなりの死傷者が出たとされているところ。付近には「備塚」と呼ばれる塚が四基ある。地元では、この塚を諸生党の死者を葬ったものとみて、気味悪がっていた。人骨は四体分、近畿大医学部の調査により解凍、その人骨とわかった。また骨には刃傷もあり、諸生党に属する者ではないと歴史研究者も判断している。

当時、話すべき水戸に伝わり市民の話題となった。一方、戦死者の母であることが明らかになったことで地元の人々は「水戸に引き取ってほしい。供養もしてあげて」西山町に訴え、同町は水戸市に「慰霊してほしい」と申し入れた。市当局は扱いに苦慮、積風検討します」と返事し、それきり。

ままではかわいそうなのよ家の近所に石塔を建て、慰霊したいといっています。遺族や縁の方で来られる方はぜひとも慰霊祭に出席してほしい」といいます。

さまざまな供養碑建立記



12年前、新潟県下で発掘された諸生党の骨には刀傷があった

100年の恩讐超えて

10月12日、新潟で慰霊祭

それから十二年。「もう放っておけない」と柿畑の地主が地域の人々の協力を得て供養碑を建てたことになった。最初の発掘から調査を行った盛岡市史編纂室長の稲川明雄さん(右)は「地主の方は、この念の慰霊祭は十月十二日に

水戸の対応が鈍く、幽がゆい思いをしているように思う。稲川さんは「昨年、水戸から三十人が史跡見学に来られた時、塚にもご案内しましたが、かわいそうとおっしゃって、それだけで」といいます。戦死者を出した名前が郡奉行の岡野正一郎

らすべて判明している。県内在住の遺族数人に慰霊祭の趣を話してみたところ、「忙しくて行けないと思う。慰霊していただくのはありがたい」「もう母のことで、すかしの関係ありません」とな反応はさまざま。しか

して行くと思えた者はいなかった。

松原神社供進使に選ばれた市議にも考えを聞いてみた。福井県敦賀市の松原神社には同地で処刑された天狗党三百五十人余の霊が祭られている。これが縁となり、水戸・敦賀両市は昭和四十年に姉妹都市の盟約を結んだ。以後、毎年十月十日の同神社例祭には市執行部、議会代表が供進使として派遣されている。敦賀から灰結までは箱車約五時間。例祭のあと、灰結に向

って慰霊祭に出席できないかどうか。

「いけないでしょう。公務出張で一日二日の日程では無理」「機会に招請があれば検討するでしょう。諸生党だからいやだとは思わない。彦根(安政の大獄で水戸藩士を弾圧、水戸浪士らに殺された天井伊直衛の出身地)とも仲よくやってるだし、百年の恩讐を超えて考えるべきでしょう。意見は分かれたが、個人の資格で出席するのは難しいとの考え方は一致した。

諸生党のリーダー市川三左衛門が処刑されて今年で百二十年になる。天狗党のリーダー・奥田耕雲はしめ主殿藩士の墓所に市は案内柱を立てたが、諸生党の市川の墓所には建てていない。「市も考え直す時期でしょう。偏った歴史の碑は時代に合いません」と語った中野史研究者の意見は一考に値すると思う。

一番 外編

諸生堂の碑

連載についていくつかの
意見をいただいたので短評
しよう。

人は「歴史を客観的に評価
すべきの意見に共感した
から」と言っている。
一方、市毛善八郎の碑に
たい」と我を靡らませてい

十五歳で死したことを示
す資料が見つかり、調査し
て二年前の大正十四年とわ
かった。

熊五郎は善八郎の死後六
十年目に碑を建てたわけだ
が、それは形は碑でも縁者
にとっては聖であることも
わかった。やはり善八郎の
ひ孫という水戸市飯沼町の
長谷川正一さん(ごぼこ
はら)の前までは毎年十一月
二十三日の命日に供物を持



大正14年に建てら
れたのが判明した
市毛善八郎の碑

市毛善八郎の実像も

遺言そのままに後世へ

新潟県刈羽郡西山町院結
の畑に、地主が供養佛を建
てるという話について友郎
町の方から建設費の一部を
負担してほしいとの申し
入れがあった。またその方
は、同町内の知人らと十月
十二日の懇談会に出席した
とのこと。ご先祖が植生
堂へ、灰棺の戦いで戦死し
たというわけではないが、
友郎町蔵辺は天狗養生の戦
い当時「淵淵勢」と呼ばれ
た養生家の拠所だったこと
もあり、心情的に養生堂を
即興できるのだろうか。本

また昨年、天狗堂のなど
った道千百を三十六日間
で完歩した奥歩け歩け協会
の伊東威光会長は「来年は
養生堂のたつた道を探い
てみたいと思う。天狗堂だ
けでは片手落ちでしょう。
歴史をこの目で検証してみ

ついても新たな事実が判明
した。碑を建てた時期が不
明だったが、ひ孫の鈴木康
さんのその後の調べで大正
十四年と確認できた。碑に
は弟市毛熊五郎が八十三歳
の時に建てたとあるが、熊
五郎が昭和二年十二月に八

ち寄り、碑の前でお参りを
したものです」と証言。た
だ長谷川さんは養生堂とは
知らず「新聞を就んで初め
てわかりました」といっ
た。碑文には「市川三孝蘭
会館ノ戦終り殉元へ引揚ケ
家来市毛善八郎付随ス弟市

孫の間に養生堂であるこ
とは言い伝えられていなが
ったようだ。長谷川さんは
「善八郎の長女が私の祖母
ですが、祖母が九歳の時に
位が参り来て天井板を植で
突き刺すなどして善八郎を
殺した」と話しているま

す」といい、「家を焼らし
ていったのが天狗堂だった
のですね」と感慨深そうに
語った。
また熊五郎は「なるま
でまけを結っていたとい
う。そんな頑固者だから碑
を建てられたのだろうか。
それほどの頑固者でも墓を
立てるのは気がひけ、あ
いまいな文句の記念碑しか
建てられなかったのだから
か。

鈴木さんが「云れな墓」
と題した一通の契約書を見
せてくれた。熊五郎が預か
った善八郎の子供たちにあ
てた「遺書」である。そこ
には「善八郎殿の墳墓の地
う。

なる飯沼村字金沢の地を協
力一致し、延いに墓を引ん
じて永遠に保存すべし(中
略)いやしくも私欲を起し
し争い事なごせぬ様深く候
みで先祖の名を汚すべから
ずとあった。
共有地はそっくり市に寄
けられ、市で入道地蔵の
川地として永遠に保存され
ることになった。「遺書」
そのまゝとなく、これでは
かったと思えます」と鈴木
さん。碑も敷地内に保存さ
れるという。熊五郎の兄を
想う心は、現在に伝わり、
碑は同時に鎮として、供た
ちを守られていくことがわ